

2003年3月期 第3四半期決算説明会 補足説明要旨

連結貸借対照表

(資産の部)

現預金は若干増加しました。売掛金の証券化を少し抑えたことから、売掛金が若干増加し、受取手形及び売掛金は19億5,700万円増加しました。棚卸資産が5億9,500万円増加しました。この内、円高による影響で3億5,200万円減少しましたので、実質的には9億4,700万円増加しました。年末に当たり、製造は動いていましたが、販売は休みが多かったため、積送品、完成品が増加したことが主な要因です。

その他流動資産は火災保険等の前払い費用が減少したこと、また、今回、その他の流動資産とその他の流動負債の両方に計上していた消費税等を会計手法で相殺した金額が約13億円入っていたことから28億2,300万円減少しました。

固定資産は69億300万円減少しました。US\$、タイバーツ、人民元に対して円が少し高くなった影響で、海外子会社の固定資産の円換算額が減少し、有形固定資産が25億2,000万円減少しました。また、当第3四半期は設備投資が40億2,000万円、減価償却費が57億2,700万円となりました。合計で44億1,700万円有形固定資産が減少しました。無形固定資産の減少分は、殆どのれん代の減少によるものです。投資その他の資産が20億3,500万円減少しましたが、この内、16億2,400万円は金融株等の下落に伴う投資有価証券の減少です。また、長期の繰延税金資産が3億7,500万円減少しました。

資産合計では71億6,200万円減少しました。この内、円高による影響で30億5,300万円減少しました。

(負債の部)

支払い手形及び買掛金が33億増加しました。この内、為替による減少が2億4,700万円ありますので実質は35億円増えたこととなります。この増加要因は支払期日の関係です。短期有利子負債は91億1,900万円増加しました。補足説明資料に細かい内訳を明記していますが、この内、平成15年11月に償還日が来る社債が100億円あり、これが長期有利子負債から短期有利子負債に移ったことが、主な増加の要因です。その他流動負債は61億6,100万円減少しました。主な内訳は、賞与引当金の減少が32億1,500万円、未払い法人税の減少が13億6,500万円、また、その他の流動資産に両建てで計上していた消費税関係の相殺金額約10億円が減少しました。この3項目で約55億8,900万円の減少となりました。

長期有利子負債は112億円減少しました。これは、社債の1年以内の償還分が長期から短期に振り替わったことによる減少です。

(資本の部)

中間期に比べてUS\$、バーツ、元、に対して円高になった関係で、第3四半期末の為替換算調整勘定は32億2,000万円増加し、665億2,800万円となりました。また、金融株の下落に伴い、その他有価証券評価差額金を10億1,300万円計上しました。投資有価証券の減少が16億2,400万円ですが、この差額の約6億円は、流動資産の前払い税金の中に入っています。この結果、資本合計は23億6,100万円減少しました。

有利子負債は、中間期末と比べ、21億700万円削減されました。この内、為替変動の影響で3億9,100万円減少しましたので、元本としての削減額は17億1,600万円です。現預金とのネットベースでいきますと、中間期からのネット有利子負債の削減額は21億2,500万円、期初から比較すると81億6,800万円の減少となりました。

連結損益計算書

粗利益率が、四半期毎に改善してきています。販管費も、第2四半期で若干上がりましたが、第3四半期で減少しました。また、金融収支も、順調に減少してきており、支払い利息が削減されてきていると言えます。また、利益改善の最大の要因は、法人税率の改善です。ミネベア単体の税効果会計のために計上していた配当金が二重課税的な要素となり、税率が非常に悪化していましたが、単体の利益率が大幅改善して配当金が少なくなったこと、また、海外の子会社も含めて赤字の会社が非常に少なくなり、黒字の会社に均等に税金が発生したこともあり、税率が大きく改善しました。

特別損益

古い機械、金型等の固定資産の除却が1億1,800万円ありました。また、四半期毎に発生している、退職給付金の費用が、1億5,600万円発生しました。その結果、特別損失として3億800万円計上しました。現在第4四半期に見込んでいる特別損失は、11月に閉鎖したフロッピーディスクドライブ事業の特損が、第4四半期に約1億円発生します。また、マレーシアでのスピーカーボックスの生産を止めたことによる清算損が2億3,000万円発生します。退職給付金が1億5,600万円発生します。また、ヨーロッパにおける事業再編のため、英国の販売会社を、ロッドエンドの製造会社であるローズベアリング社に統合するための費用が約2億円発生します。以上の結果、約6億8,800万円の特別損失をこの第4四半期に見込んでいます。中間期の時点で、当下半期に約9億円発生すると予想しておりましたので、第3四半期と第4四半期を合わせると、ほぼ見込み通りの数字になると考えています。

連結売上高、営業利益に対する為替レート変動の影響

当第3四半期は、計画レートに対して、US\$、タイバーツ、人民元等に対して、円が高くなっていましたので、単純に計算すると、売上高が18億4,500万円減少したことになります。営業利益も2億3,300万円減少したことになります。当社の場合、生産地がタイや中国に分かれていますので、為替の影響は単純ではありません。ただ、当初の計画と比べてUS\$に対して円が約9%高くなっていますが、タイバーツ、元に対しても、円が約5%高くなっていますので、相殺される形となり、売値が下がっても、コストも下がりますので、損益的な影響は当初の見込みより発生していません。

連結キャッシュフロー計算書

12月に年末の特殊要因として賞与の支払いが32億800万円発生したことにより、営業キャッシュフローが56億5,500万円と、第1、第2四半期に比べて減少していますが、第4四半期には改善されると考えています。

設備投資、減価償却費

ベアリングの増産設備を95億円と考えていたところ、今回50億円で済むという計算になりましたので、設備投資の通期予想を45億円減額し、226億円に変更しました。設備投資の今期の目標は、基本的に発注ベースで

す。なお、減価償却費は予定より若干少なくなる見込みですが、検収ベースの数字でもありますので、前回発表した金額を変更していません。

以上